

平成26年度九州大学大学院法学府
修士課程入学試験問題（秋季）

行政学

次の二人の会話について学術的に論評しなさい。

A：「一昔前と比べると、自治体行政も随分変わってきたよね。どこでも住民参加は当たり前になってきている。まだまだ不十分だと思うけれど、とても良い傾向だと思うな。」

B：「本当にそうかな？実際に参加しているのは、一握りの『プロ市民』みたいな人たちなのであって、そうした人たちの意見ばかりが尊重される結果になるとすれば、大いに問題なんじゃないかな？」

A：「それは極論だよ！確かに、そういう人たちも参加しているかもしれないけれど、そういう人たちだけが参加しているわけじゃない。」

B：「本当にそうかな？最近、全国各地で、自治基本条例制定に際して、市民委員会を設けるケースが多くみられるよね？市民委員会で、場合によっては1年以上にわたって市民同士で討議して、最終的に条例に盛り込む内容等を提言するわけだ。そうしたケースにおいて何が起きているかといえば、『普通の市民』も最初は参加するのだけど、やはり仕事などで忙しいから、途中で『参加疲れ』してしまって、最後にはほとんどいなくなってしまう”という現象だよ。結局、『プロ市民』みたいな人たちだけが最後まで残ることになる。そうすると、当然その人たちの意見に基づいて条例の内容等が提言されることになるわけだ。それでも本当に問題はないのかな？」

A：「うーん…。」

B：「それに、昔からよく言われていることだけど、住民参加っていうのは、『議会の迂回』につながるんじゃないかな。首長が自らの政治的パワーを強化するために住民参加を進めている面も否定できないと思う。安易に住民参加を広げるよりも、議会をもっと大切にすべきだと思うな。」

A：「うーん…。でも、首長にせよ、議会（議員）にせよ、選挙で選ばれていると言ったって、住民の諸利害や意見をすべて把握できているとは思えない。だとすれば、やっぱり、住民参加は大事なんじゃないかなあ…？」
